

環境報告書 2022

九州大学大学院芸術工学研究院



目次

トップメッセージ	1
部局概要	3
環境マネジメント体制	4
環境活動と目標	5
環境関連の授業科目数	6
○環境に関する研究組織	7
「環境月間」行事等	8
資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ	9
資源、エネルギー関係のグラフ	10

トップメッセージ



芸術工学部の前身である九州芸術工科大学は、1968年に「技術の人間化」を理念として設立されました。高度経済成長の流れに乗って産業が発展を遂げる過程で、ともすれば後回しに、あるいは気づかないことにされてきた様々な問題に目を向け、芸術に根ざした自由な発想とともに、人間のためにできることを最優先に考えるべきである、という強い意志を表した理念です。人間が真に快適に生活できる環境を創るべきである、ということに通じる考えです。

世界に目を向けると、同時期の1970年から「アースデイ」として、環境問題についての討論集会が毎年開かれるようになったようです。同じ時期に、産業の発展と並走して、人間や環境へ意識を向けることが必要であると、既に多くの人が気付いていたのです。

50年が経過した今、状況はどうでしょうか。もちろん、解決へ向かいつつある事象もあります。例えば自動車に関する問題でいえば、排気ガスは従来と比べて随分とクリーンになり、また内燃機関を用いない方式の登場で、過剰と言えそうなレベルにまで静かになり、危

険回避のために接近を知らせる音をわざわざ付加するような段階です。

しかし、環境問題全体を俯瞰すると、その変化の時定数は非常に大きく、手強そうです。資源の枯渇や温暖化など、クラシックな問題に加えて、海洋マイクロプラスチックなど次々と新しい課題も現れます。国連が持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)として世界で取り組むべき 17 項目の目標と 169 のより具体的なターゲットを提唱したのも、その手強さを意識したものだと解釈することもできます。我々も SDGs デザインユニットを組織し、デザインのチカラで様々な問題を解決することに貢献することを試みています。問題は本当に大きいですが、少しでも、わずかでも貢献していくことができればと考えています。

この報告書は、上記のユニットに限らず大橋キャンパスで取り組んでいる環境活動をまとめたものです。これからも 教職員，学生一体となって人間のための環境を創り，維持することに取り組んでいきたいと思えます。

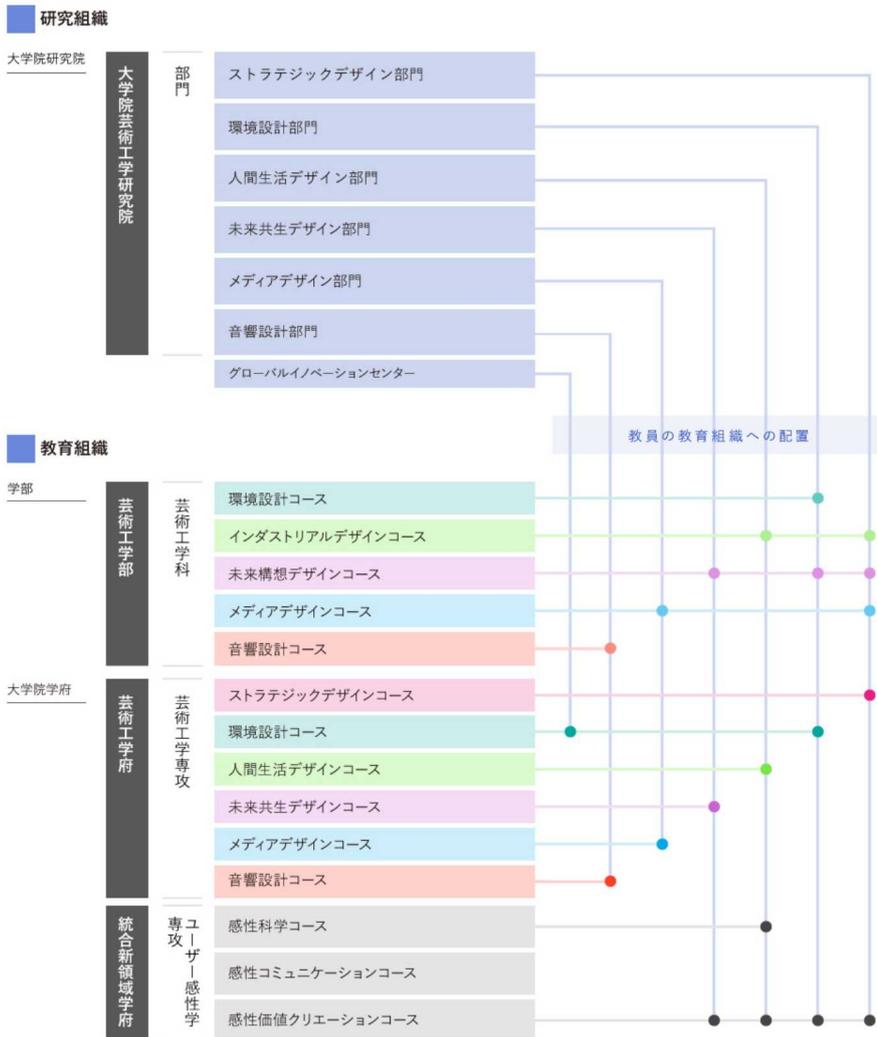
令和 4 年 5 月
芸術工学研究院長 尾本 章

部局概要

部局名 九州大学大学院芸術工学研究院

所在地 〒 8 1 5 - 8 5 4 0 福岡市南区塩原四丁目 9 番 1 号
 TEL 0 9 2 - 5 5 3 - 4 4 0 0 (番号案内)
 URL <http://www.design.kyushu-u.ac.jp>

組織



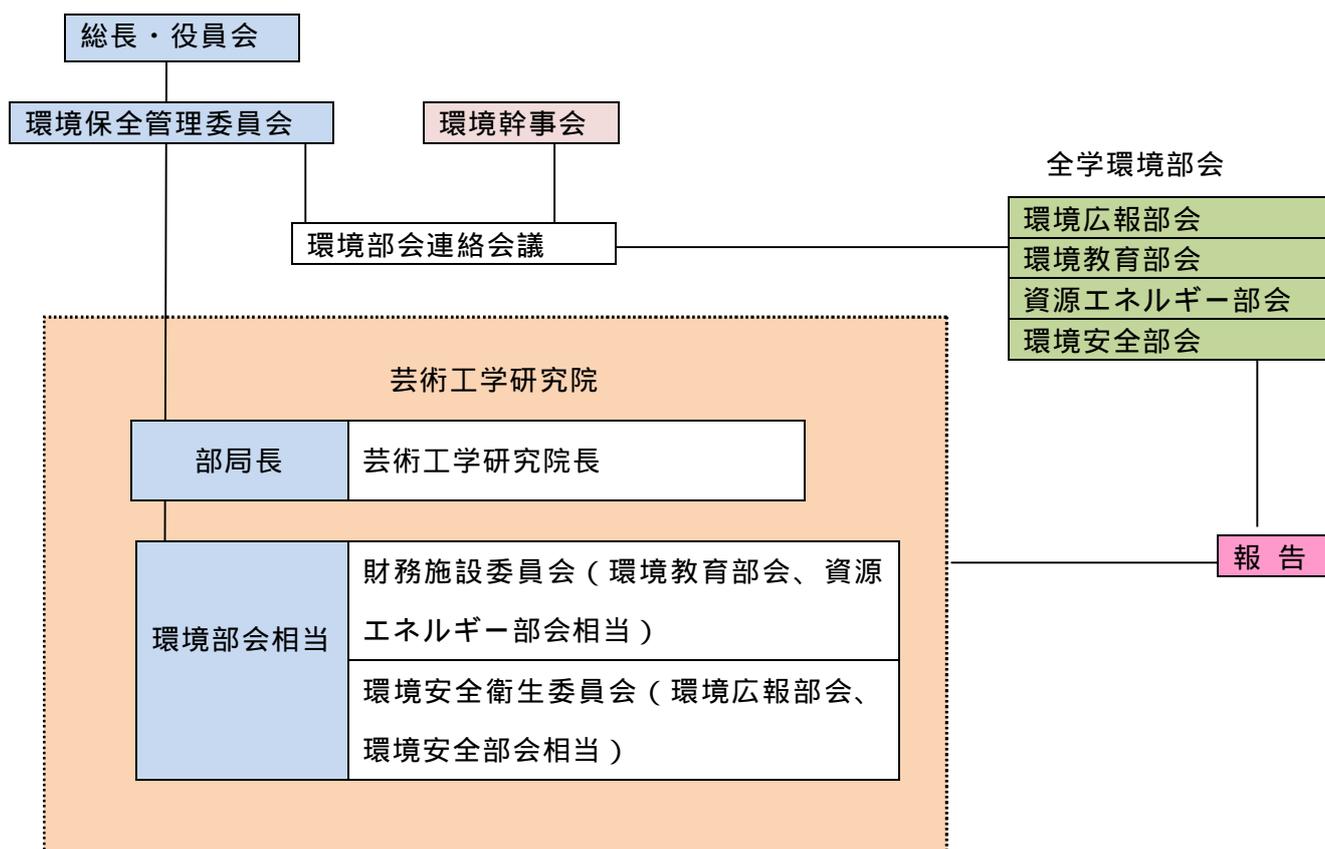
構成員 教職員・学生：1,446名（令和4年3月現在）
 [内訳] 教職員 205名（教員：96名 職員：101名 研究員：8名）
 大学院生 407名（修士課程：305名 博士課程：102名）
 学部学生 834名（1～3年次：593名 4年次以上：241名）

環境報告対象の組織 大橋地区（芸術工学系）

報告期間 「環境報告書 2022」に記載している内容は、主に2021年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の取り組み、実績値を中心にまとめており、一部に、令和3年3月31日以前及び令和4年4月1日以降5月までの取り組みや活動データが含まれています。

環境マネジメント体制

平成17年4月1日に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」（環境配慮促進法）を受け、本学では「環境保全管理委員会」の下に、「環境広報部会」「環境教育部会」「資源エネルギー部会」及び「環境安全部会」を設けています。芸術工学研究院においては「環境広報部会」「環境教育部会」「資源エネルギー部会」及び「環境安全部会」の設置の主旨に則った組織・体制を構築しています。環境報告書の作成、およびより一層環境に配慮するための活動を行っています。



環境活動と目標

令和3年度の具体的な取り組みと令和4年度の目標を以下に示します。

事 項	具体的な取組	令和4年度目標
組織・体制	環境報告書を作成した。	環境報告書を作成する。
温暖化対策	室温設定を、夏季28度、冬季19度を目標とし、節電に努めるとともに、クールビズ、ウォームビズの励行を実施した。	引き続き、室温設定を、夏季28度、冬季19度を目標に呼びかける。 省エネ対策として、前年度比で、電気、ガス共に1%削減を目標とする。 引き続き、空調機の更新、照明器具のLED化を検討する。
資源・循環	ごみの分別・減量を推進した。 不要な段ボールを一部管理棟で保管し、研究者に譲渡した。 放置自転車の整理を行った。	ごみの分別・減量をさらに推進する。 放置自転車の整理を行う。
グリーン購入	環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進めた。	九州大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。
化学物質管理	不要な薬品類の処分を行った。	化学物質管理システムによる薬品管理体制を実施する。

環境関連の授業科目数

芸術工学研究院において、令和3年度に開講された環境関連の授業科目数(キーワードは、エネルギー、資源、地球汚染等の地球環境に限定)は下記のとおりです。

芸術工学部 9科目

科目名	キーワード
環境社会デザイン論	自然循環 気候変動 環境汚染 地域社会 企業行動・政策
環境と持続可能性	持続可能性 プラスチック循環 地域社会
環境調整システム論	熱環境 空気環境 光環境 音環境
環境設計プロジェクトC	地域再生 自然・都市環境 ランドスケープ 自然環境の保全と利用
環境保全論	環境保全 植生 里地・里山 湿地 ボランティア 生態系 農山村 保全活動 土壌・防災
緑地環境設計論	ランドスケープ 景観計画 Behavioral Approach 緑地 オープンスペース オープンスペース・ネットワーク アメニティ 都市化 自然環境 自然公園 計画単位 環境影響評価 景観法 環境基本法 都市公園
都市環境設計論	都市計画 まちづくり 景観管理計画 歴史的環境保全 コミュニティデザイン ツーリズム 文化遺産
設備計画論	設備計画、地球環境、省エネルギー、室内環境、快適性、安全性、利便性、空気調和設備、給排水衛生設備
建築生産	建築プロジェクト、発注と契約、設計と監理、コスト、ファシリティマネジメント

芸術工学府 7科目

科目名	キーワード
環境・遺産デザインプロジェクトI	地域 調査 分析 資料論 緑地保全学 人類学 建築学 都市・建築史学 農業 林業 環境 地域遺産 生活システム 生活文化
地域熱環境工学	Urban climate, heat island phenomena, wind engineering, energy balance of earth surfaces
自然・森林遺産論	自然 森林 里山 保全 農山村 環境保全・景観保全・森林保全 生物多様性 市民参加 環境教育 地域計画 環境調査・環境管理
ランドスケープマネジメント	ランドスケープ・アーキテクチャ 緑地 オープンスペース 環境共生 景観計画・設計 保全・整備 人間行動 サステナビリティ 文化的景観 ランドスケープエレメント
持続社会マネジメント	環境共生 地域形成 NPO 協働 パートナーシップ エンパワーメント
国際協カマネジメント	開発援助 BOP A.セン 文化 開発理念 NGO 農村開発 貧困 途上国
ツーリズムマネジメント	ツーリズム、公共空間、地方都市、再生、景観、デザイン、マネジメント、自然公園、環境保全、コミュニティ、適正利用、サステイナブル、モニタリング

環境に関する研究組織

芸術工学研究院では、環境設計部門において、環境に関する研究を行っています。建築・都市・地域・ランドスケープを主な対象とし、高度な調査・研究と創造的なデザインの実践に関わる分野で構成されており、他の芸術系学部や理科系学部にはない総合的な分野が多く含まれています。

環境設計部門の概要

人々を取り巻く環境すなわち建築・都市・地域・ランドスケープを主な対象として、高度な調査・研究と創造的なデザインの実践を行います。空間的・時間的な広がりや社会の多様性を念頭に、現代において顕在化する諸問題に真摯に向き合うとともに、人間と環境の関係のありかたを根源的に考察し、国際的な建築家教育課程として認定された内容（グローバル・アーキテクト・プログラム）を含む、より豊かな環境デザインの実現に寄与します。

研究内容

建築・都市・地域・ランドスケープを主な対象とし、高度な調査・研究と創造的なデザインに関する研究を行っています。研究分野としては、国内外をフィールドとした実践的な研究により、環境の価値を評価し将来へ継承するための持続可能な建築・景観・社会システム、環境の維持向上に貢献する研究分野、人間と環境の関係をふまえた持続可能なデザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現するプロセスに関する研究分野、空間的な調和と時間的な視野を持って技術面から環境設計を支える研究分野などがあります。なお、次の研究分野で構成されています。

建築デザイン，都市デザイン，都市・建築環境工学，環境心理学，ランドスケープデザイン，緑地環境設計，環境人類学，建築計画・建築設計，ランドスケープコンサベーション，建築構法計画，日本建築史，景観生態学，文化財学，建築構造，環境化学，建築材料，他

主な研究施設

施設名	施設紹介
環境実験棟	建物の安全性を高める仕組みを研究・開発する施設です。環境実験棟は総床面積 432m ² の 2 階建てで、1 階には、2MN 万能試験機を用いた建築材料の強さを調べる建築材料実験実習を行うとともに、構造物多目的加力実験装置により新しい建築構造・構法の実験的研究を行っています。
環境設計グローバル・ハブ	海外の連携大学・研究機関，地域住民と協働して，社会的な諸問題を解決するための実践的環境デザイン研究を実施する研究組織です。

「環境月間」行事等

1. 放置自転車の撤去

駐輪場以外の場所に放置されていた自転車に、一定の期間内に移動をする旨のタグを貼り付け、期間を超えても駐輪場に移動されなかったものについては撤去処分を行いました。



2. 対策の実施

夏季の冷房期間及び冬季の暖房期間には、電力使用量抑制のために室内温度の設定を徹底するなど、省エネ対策を行った。

3. 夏季のクールビズ、冬季のウォームビズの励行

地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため、5月1日から10月31日まで、可能な限りクールビズの励行を行いました。なお、来客者等には、掲示により理解を得るように努めました。

また、冬の地球温暖化防止対策について暖房を可能な限り使用せず、衣服で調節するよう励行しました。

資源、エネルギー、廃棄物関係のデータ

延べ床面積 39,769㎡

単位：kwh

電気	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	2,166,888	2,092,440	2,001,803	1,790,082	2,000,725

単位：m³

都市ガス	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	40,347	30,193	27,373	21,226	27,471

単位：L

重油	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	0	0	0	0	0

※25年度以降は、非常用電源用として。

単位：t-CO₂

二酸化炭素排出量 (電気、都市ガス、重油)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	1,297	1,232	1,175	1,043	1,175

単位：GJ

エネルギー発熱量 (電気、都市ガス、重油)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	23,463	22,253	21,219	18,825	21,213

単位：m³

下水道	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	17,160	15,718	16,435	13,122	14,081

単位：千枚

用紙	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	1,109	1,040	1,013	615	723

※A4換算できない為、メーターカウント数で掲載している。

単位：t

古紙	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新聞	0.4	0.2	0.3	0.5	0.0
段ボール	4.1	3.6	4.6	4.1	5.5
雑誌・古紙他	13.8	15.5	20.7	33.8	11.5

単位：t

廃棄物	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
可燃ごみ	22	20	18	15	18
不燃ごみ	16	14	27	47	48

単位：kg

分別ごみ	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
瓶	810	516	559	345	290
不燃ごみ	275	290	385	210	220
有害付着物	0	0	0	55	70
金属くず	241	804	203	438	438
実験系可燃ごみ	0	160	0	0	0
発砲スチロール	51	65	0	38	109
ペットボトル	1,808	2,364	2,314	790	958
飲料缶	1,724	1,240	1,175	665	1,235
蛍光灯	152	125	115	200	212
乾電池	0	30	78	70	65

単位：kg

その他	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
無機系廃液	140	1	160	0	10
有機系廃液	12	0	200	110	0
感染性廃棄物	0	0	0	11	0
廃薬品(本)	1	104	217	29	0
水銀含有物(個)	0	0	6	4	3

資源、エネルギー関係のグラフ

